

令和6年度 京都大原学院 後期学校評価（最終報告）

学校教育目標

「大原のゆとりある心を自信をもって伝えられる子に!」

◎後期学校評価を実施し、学力分析テストの結果などを総合し、以下の(1)～(6)の項目ごとに後期学校評価（最終報告）としてまとめました。2月21日開催の学校運営協議会での協議内容も反映しています。1ページ目に総合評価として、学校教育目標の達成状況、次年度に向けた見直しについての考えを記述しています。アンケートの回答ありがとうございました。

（後期学校評価）

9年間の「大人になる科」の取り組みを柱に、地域に根ざしたキャリア教育、探究・提言型の学習、全校の縦割り活動を来年度も引き続き大切に、具体的な取り組みを推し進めていきたいと考えています。現在の学習のスタイルの大枠を維持し、新しいものを取り入れ、さらに洗練されたものにしていきたいと思っています。教職員の研修をさらに充実させ、地域・保護者の支援を結集し、さらなる向上を図り、全市・全国に発信していきたいと思っています。

小中一貫教育小規模校全国連絡協議会として、本校が事務局を担い、今年度は11月16日（土）に本校を会場にサミットを開催しました。内外より取り組みについてのお褒めの言葉をいただいています。小中一貫校開設15周年を経て、さらに全国の小中一貫校、関係教育機関と連携を進め、小中一貫教育小規模校の可能性を追求していきたいと考えています。

（学校運営協議会でいただいたご意見）

11月に行った小中一貫教育小規模校全国サミット in 大原で、教職員のみなさんがいきいきと授業など活躍している姿を見ることができ、大変うれしく思いました。特に若い先生の活躍が素晴らしいと思います。PTAの活動を外部に見せることができたことも大きな成果でした。我々が感じたものを学校評価に入れていくことが大事だと思います。この学校評価の「大原モデル」を全市に広めてみてはどうでしょうか。

（1）「確かな学力」の育成に向けて

【分析】

各種、ジョイント・学習確認プログラムでは全教科全市平均値を上回っています。後期学校評価アンケートで「学校に来ることで、自分は成長していると感じる」かどうかの設問では前期ブロック生96%中期ブロック生92%後期ブロック生100%がそう思う・だいたいそう思うと回答しています。

「英語の時間に、英語で遊んだり、英語を使ったりするのは楽しい」と回答した学院生は、前期B、88%、中期B、84%、後期B、100%。「英語で外国の方と話せば素敵だと思う」と回答した学院生は、前期B、89%、中期B、84%、後期B、100%となりました。昨年度の学校評価報告書にも記述しましたが、テスト形式に不慣れな傾向や、そこから時間が足りなかったことなどが結果に影響することがある点を確認しています。英語への苦手意識も一定あるようで、テストでは伸びが見られ

ない学年もありました。後期 B になるにつれて、英語を使うことが楽しいと感じている学院生が多く見られます。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

以上のことを踏まえて、本校では引き続き、基本的な学習のスタイルは維持しながら進めていたいと考えます。5年生の学習で、テストの形式になれるトレーニングを継続したいと考えます。学院生は学習について全体的に、大変健闘していると思います。テストの形式になれるトレーニングを継続し、引き続き、IT の体制で指導を積み重ねていけば、向上を図ることができると思います。

【学校運営協議会・大原プロジェクト委員会より】

学校にくること、自身の成長を感じている学院生が多いと伺い、大変喜ばしいことだと思います。様々な取り組みの影響が学習にも現れるようになってきました。しっかりと鍛え、育んでいきたいと思っています。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

【分析】

前期の学校評価アンケートと数値を比較してみると、「自分がされていやなことは、他の人にしないようにしている」「挨拶は自分からしている」「みんなが気持ちよく生活できるためのマナーを意識している。」という項目で高評価回答が多く見られます。「大原の自然や環境について関心を持ち、大原の素敵さをいくつか挙げて話すことができる。」の項目でも9割程度が肯定的回答になっています。「学校の先生たちは自分の話をよく聞いてくれる」の肯定的回答も100%に近い肯定的回答となりました。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

学校評価アンケートの前期アンケートと比較しても増減はありますが、肯定的回答が多く、「豊かな心」の育成に向けて、環境の整備が進んでいると考えます。本校の学習の柱でもある、9年生の「大原提言」に向けての取り組み、小中一貫校の強みである、1～9年生の縦割り活動をさらに向上発展させていきたいと考えています。

【学校運営協議会より】

本校の学習の柱である、大原提言について、キャリア教育の中には職業教育だけでなく、生き方についての学びであることを意識して取り組んでいきたいものです。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

【分析】

新体力テストの結果、具体的な数値は出ませんが、前年の結果よりは体力の向上の取り組みの成果が見られます。保健室の利用状況はケガなどで訪れる学院生は前期と比べて少なくなっているようです。感染症の流行も前年度と比べて激減し、学級閉鎖も必要ありませんでした。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

学年の違いはありますので、比較することは難しいのですが、前年度の体力テストの結果よりは若干上位ランクの学院生が増えています。ボールや道具の整備を行い、子どもたちが遊びやすい工夫をすることで、外遊びの学院生が増えていると感じています。授業でもベースボール型の運動を行い、総合的な体力の向上を目指しています。継続的に取り組み、定着を図りたいと思います。家庭での丁寧な見守りや、学校での感染症対策、早期の対応により、学院生が大きく体調を崩すことは少なくなってきたように感じます。学級での感染も抑えられているようです。

【学校運営協議会・大原プロジェクト委員会より】

タブレット端末を使用する際の、子どもたちの姿勢が気になります。対策を考える必要があります。学校に立ち寄った際、運動場で元気に遊んでいる姿をよく見かけ、大変うれしく思います。体を動かす機会を多く作っていきたいと思います。

（４）学校独自の取り組み

【分析】

学校評価アンケートの「『やってみたいこと』『なりたいもの』などがいくつか頭に浮かぶ。」では後期Ｂ生 91%→80%、中期Ｂ生 69%→64%、前期Ｂ生 83%→83%「学校の学習が将来、社会に出たとき役に立つと思っている」では後期Ｂ生 91%→80%、中期Ｂ生 93%→100%、前期Ｂ生 98%→92%の児童生徒が肯定的回答になりました。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

数値の増減はあるが、本校の総合的な学習の時間「大人になる科」の取り組みの成果が表れていると考えます。多くの地域の方が学校の学習に協力していただき、充実した取り組みになっています。これからも続けていきたいと思います。次年度の活動を楽しみにしている学院生が多くいるので、学習の内容は大きく変えず、少しずつ見直しを進めていきたいと思います。

【学校運営協議会より】

探究的な学びと同時に、教科横断的な学びとする必要があると思います。地域防災などの面で、自治会の補助金を活用し、活動につなげるなどの取り組みをしてみてはどうでしょうか。子どもたちと大人と一緒に学び、次の世代に文化を伝え、よりよい社会を目指していくことは大変重要な視点だと思います。

（５）教職員の働き方改革について

【分析】

後期、学校評価教職員のアンケートでも、「職場では同僚に相談しやすい雰囲気がある。」「職場には働きやすさを感じている。」の項目で肯定的な回答が 100%になりました。11 月の勤務時間外勤務時

間合

計が、80 時間以上が 0 人、70～80 時間未満が 1 人、60～70 時間未満が 2 人、45～60 時間未満 2 名、12 月の時間外勤務時間は 45～60 時間未満 4 名となりました。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

今年度学校閉鎖時間を 30 分早め、時間外勤務の縮減を目指しました。前年度と比較すると大きくは変わっていません。それでも、意識の浸透からか縮減は進んでいます。来年度は教職員の年休や、休憩時間の取得促進についても工夫をしていきたいと考えています。

【学校運営協議会より】

地域や学校運営協議会の協力で、教職員の皆さんの働き方や生活が守られるようになればいいと思います。多くの人に力を借りてサポートを増やし、負担軽減を図る必要があると思います。令和 7 年 2 月 21 日の学校運営協議会にて、理事ヘリーフレットを配布し、学校での教員の負担軽減や働き方改革、地域の抱える高齢化等による担い手不足などの課題解決に向けた意見交換を行いました。他都市では PTA を失くす動きが多くありますが、大原では残していきたいのご意見をいただきました。保護者集団で意見を学校に伝えうる組織が失われてします危険性について理事より提言がありました。保護者・学院生はただのお客さんとは違うのですから。仕事の量的な改革、時間等の数値的な改革は進んでいるかもしれませんが、本当は教職員がやりがいを感じているかどうかが大切です。来年度は教職員にも「学校は楽しいか」「来年度もこの学校に努めたいか」などアンケートの質問項目にいらしてみようと考えています。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

【分析】

学校評価アンケートでは、「学校の先生は自分の話をよく聞いてくれる」「学校に来るのが楽しい」「先生たちは信頼できる」「じぶんがされていやなことはほかの人にしていない」などの項目で高評価の回答になっています。いじめアンケートの「友だちからされたことで、いやな思いをしたことはありますか？」の問いに「はい」で回答した学院生が若干名いました。教育相談などでの聞き取りを丁寧に行い、いじめアンケートの結果についても、個別に聞き取りを行い、学年に応じて、指導を行っています。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

教育相談での聞き取りなどを丁寧に行うことができていると思います。1 クラスの人数も以前より増えてきました。生徒指導の研修の強化を行い、引き続き、指導を進めていきたいと思っています。

【学校運営協議会・大原プロジェクト委員会より】

小規模校の強みを生かし、丁寧な指導をしてほしいと思います。子どもたちの力を見極め、それをさらに伸ばしていく力が教員には必要です。全国的には子どもが減っているのに、不登校の子どもは増加しています。子どもの暴力事件も増えています。学びの多様化学校も設置されて、学校も新

しい形に変化してきました。多くの先生方が自身の経験したエピソードを多くお持ちです。京都大
原学院でもなされていることですが、共有をはかることが日本型の教育の優れている点です。